都市空間におけるダンスコラボレーションプロジェクト｜ベルギー・日本

Borrowed Landscape-Yokohama
横浜借景

主催・問合せ：NPO 法人 Offsite Dance Project

〒223-0061 神奈川県横浜市港北区日吉 1-21-4-201 Tel&Fax. 045-565-2331
プロデューサー：岡崎松恵　E-mail: info@offsite-dance.jp / mobile.090-6340-1127
本公演広報担当：斉木香苗　E-mail: info@borrowed-landscape.jp / mobile. 080-4197-4169

『Borrowed Landscape-Yokohama（横浜借景）』上演概要

NPO法人Offsite Dance Projectは、国内外の都市空間を舞台に、日本と海外のアーティストが共同で創作・上演に取り組む“都市空間におけるダンスコラボレーションプロジェクト”を推進しています。このたび、世界各国の非演劇空間でパフォーマンスを展開するベルギー拠点の「deepblue」（ディープブルー）とともに新プロジェクトを立ち上げ、今秋横浜にて『Borrowed Landscape-Yokohama（横浜借景）』を開催します。

タイトルの「借景」は、庭外の風景を景観として利用する伝統的な造園技法ですが、このプロジェクトは、わたしたちの身の回りにある環境や風景を〈借景〉とするサイトスペシフィックなパフォーマンスです。今回の舞台は、横浜の都心部みなとみらい地区にある一戸建てのモデル住宅。建物や家具、暮らしのスタイル、そこに展示されているさまざまな要素に、身体／音／言葉などを重ね合わせることで、都市の風景と人との関係を問い直す試みです。プロジェクトメンバーには、ベルギーと日本から第一線のアーティストが参加し、共同制作によるパフォーマンスを展開します。観客は15名ずつ入場し45分間滞在、観客ひとりひとりの知覚や想像力でさまざまな見方ができるパフォーマンス体験です。

このプロジェクトは、現実をわずかに拡張しながら、身体のあり方／参加する人々のものの見方に疑問を投げかける新たな体験の共有を目指し、横浜での世界初演後、ベルギー、ノルウェーにて上演されます。

■開催概要

タイトル	**「Borrowed Landscape-Yokohama（横浜借景）」**
内容	**一軒のモデル住宅を舞台に展開するインスタレーション・パフォーマンス** ※パフォーマンスが継続する中、観客は45分間滞在
開演日時	**2011年10月28日（金）-11月1日（火）16:30/17:30/18:30 開演** ※受付・会場は、開演の10分前
会場	**横浜ホームコレクション内「ハウゼ」モデルホーム** 住所：横浜市西区みなとみらい3-3 アクセス：みなとみらい線「みなとみらい」駅5番（けやき通り口）より徒歩5分／JR・市営地下鉄「桜木町」駅より徒歩10分 ＊横浜ホームコレクションの駐車場は使用できませんので、公共交通機関をご利用下さい。
料金	**1,500円　※各回定員15名**
チケット取扱	**オンラインチケット予約（特設ウェブサイト：PC・携帯） http://borrowed-landscape.jp** ＊9月17日［土］10:00より発売 ＊お申込の際に、会員登録が必要になります（無料）。 ＊料金のお支払とチケットのお受け取りは、セブン-イレブンになります（手数料不要）。 ＊チケット記載の整理番号順にご入場いただきます。
公演問合せ	**NPO法人 Offsite Dance Project　E-mail: info@offsite-dance.jp　TEL.090-6346-5820** 9/29まで：〒232-0061 横浜市港北区日吉1-21-4-201 TEL&FAX.045-565-2331 9/29から：〒231-0834 横浜市中区池袋10-1-202 TEL.090-6346-5820
開催形態：	主催：NPO法人 Offsite Dance Project、Borrowed Landscape Japan（BLJ） 助成：ACY横浜における創造的活動助成/先駆的芸術文化活動部門、神奈川県 Norwegian Arts Council、Flemish Community 特別協力：株式会社ハウゼ 協力：横浜ホームコレクション

STAFF
プロデューサー：岡崎松恵、ハイネ・アヴダル＆deepblue vzw
広報：斉木香苗／カバー写真：森日出夫／フライヤーデザイン：セキコウ／ウェブデザイン：加藤和也
テクニカル・ディレクター：遠藤豊／運営スタッフ：山口裕子、伊藤史織、高原悠子

『Borrowed Landscape-Yokohama（横浜借景）』の見どころ

国際共同制作によるサイトスペシフィックプロジェクト

日本とベルギーの第一線のアーティストのコラボレーションによる、サイトスペシフィックなパフォーマンスです。
「deepblue」は、今年 2 月に Offsite Dance Project 主催の『We dance 2011』で、建築事務所でのインスタレーション・パフォーマンス『Field Works-office』を日本初演し、従来のダンスの概念を覆す試みとして高く評価されました。
今回の公演では、ベルギーから、「Field Works」の主要メンバーであるハイネ・ロズダル・アヴダルと篠崎由紀子がコンセプトと演出、ファブリス・モワネが音響デザインを手がけ、ローザスの舞台で活躍するダンサーの社本多加が初参加します。
日本からは、テキストにチェルフィッチュの岡田利規。振付・出演に、それぞれ独自の作品を国内外で発表し、海外のアーティストとのコラボレーションやソロパフォーマーとしても評価の高い川口隆夫、神村恵、小浜正寛（ボクデス）、そして、注目の若手長内裕美が参加します。異なる作品傾向ゆえに、これまで共演する機会のなかったアーティストたちが、本作品では共同制作に取り組んでいます。

舞台は、一軒のモデル住宅。

横浜の都心部みなとみらい地区にある住宅展示場「横浜ホームコレクション」にある、一軒のモデルハウスが舞台となります。
6 人家族を想定して建てられた、横浜の住宅メーカー「ハウゼ」のモデル住宅。この1階と 2 階、約 268 平米に存在しているものすべて（スペースのみならず、展示物、観客の存在自体も!?）を、作品の一部として取り込む、即興的なパフォーマンス。身体／音／言葉を介在させることで、現実を少し「拡張」し、フィクションとノンフィクションの境界を往来する時間と空間をつくります。
観客は 15 名ずつ、45 分程度滞在します。体験する人々の知覚や想像力で、さまざまな見方ができるパフォーマンスです。

会場写真：「ハウゼ」外観

家への欲望、ということについて思いをめぐらせればめぐらせるほど、あなたはこんがらがってくるばかりです。家は、生活と結びついています。だからステキな家への欲望は、よりよい人生への欲望と言い換えていい。でも、本当に言い換えていいのでしょうか？　この欲望は、容易に批判され得る。よりよい人生への欲望が批判されるのではありません。ステキな家への欲望を通してよりよい人生への欲望を満たそうとしていることが、批判され得るのです。バカじゃねえの？
しかしです。海に近いステキな立地、西洋趣味のステキなデザインの空間に、家具や調度の類。そんなものに囲まれて暮らしたいという、あなたのこの気持ちは、そこまで批判されなくちゃいけないものなのか？ステキなことをステキだと無邪気に笑える心、それのどこが悪いのか？恋する思いを正当化するのとまるきり同じ手つきで、ステキな家への欲望を正当化したい思いが、あなたにはあります。あなたは家がほしい。あなたは家への欲望などに踊らせられたりするものかという気持ちを、強く抱いている。でも、あなたはいつか家がほしい。

— 岡田利規（制作ノート）

プロジェクトメンバー　プロフィール

ハイネ・ロズダル・アヴダル　Heine Røsdal Avdal／振付家・パフォーマー／deepblue 主宰

オスロ出身、ブリュッセル在住。ノルウェー国立バレエ学校後、ベルギーの P.A.R.T.S で学ぶ。1997 年からメグ・スチュアート率いる「Damaged Goods」に入団。2000 年より振付家として活動開始。2001 年に音響デザイナーのクリストフ・デ・ブックと篠崎と共にカンパニー「deepblue」をブリュッセルに結成。身体、映像、オブジェなどを使ったインタラクティブな作品を制作。インスタレーションや映像作品も手がける。2009 年より篠崎と共に『Field Works』シリーズを開始。ホテル、オフィス、自然環境などを取り入れたパフォーマンスプロジェクトを制作し、ヨーロッパ各地で公演を行っている。

篠崎由紀子　Yukiko Shinozaki／振付家・ダンサー／deepblue 主宰

1969 年東京生まれ、ブリュッセル在住。ポートランド州立大学でコンテンポラリーダンスと心理学を学ぶ。卒業後、NY でダンサーとして多数の振付家の作品に参加する一方、自身の作品創作を開始。1996 年メグ・スチュアートのアシスタントとしてミハイル・バリシニコフ率いるホワイトオークプロジェクトの作品制作に参加。その後「Damaged Goods」に入団。2001 年からハイネ・アヴダルとの共同創作を開始、「deepblue」を結成。主な作品に『closer』(2003)、『ひび』(2007 年、山田うんとのコラボレーション作品)、『You are here』(2008)、『Field Works』(2009)など。ヨーロッパを中心に活動中。

岡田利規　Toshiki Okada／演劇作家、小説家／チェルフィッチュ主宰

1973年生まれ。1997年に「チェルフィッチュ」を結成し、横浜を拠点に活動。2005年『三月の5日間』で第49回岸田戯曲賞を受賞。2007年デビュー小説集『わたしたちに許された特別な時間の終わり』を発表、翌年第二回大江健三郎賞受賞。2005年『クーラー』で振付家として「TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2005」最終選考会に出場。従来の演劇やダンスの概念を覆す作品により、日本のみならず、海外でも高い注目を集める。カンパニー作品は、森美術館主催「六本木クロッシング展」、「あいちトリエンナーレ2010」に参加するなど、演劇のみならず多方面へ活動を展開している。11年2月、最新作『ゾウガメのソニックライフ』を発表。

©Nobutaka Sato

ファブリス・モワネ Fabrice Moinet／音響デザイナー

フランス出身、ブリュッセル在住。ボルドー大学で数学と科学を学ぶ傍ら、音響デザイナーとして活動を開始。数年間IRCAMのフォーラムメンバーとして、パリ国立視聴覚研究所やマサチューセッツ工科大学で教鞭をとる。パリでジャズ／即興コンサートの音響を担当する一方、コンテンポラリーアート作品の為に独自のソフトウェアやハードウェア、エレクトロニクスの開発を手がける。コラボレーターに、フランスのヒップホップダンスの振付家Frank II Louise、現代音楽振付家のBenedict Mason、音響／ビデオアーティストのChristina Clarなど。deepblueには2008年から『Field Works』のプロジェクト等に参加。2011年2月『Field Works-office』横浜公演で初来日。

小浜正寛　Masahiro Kohama／役者・パフォーマー／ボクデス

遊園地再生事業団、フィリップ・ドゥクフレ『IRIS』、ニブロール、珍しいキノコ舞踊団等に出演する一方、2001年より「ボクデス」名義でカラダ、アニメ映像、モノをミックスした、グルーヴ感と脱力感とギミックに満ちた作品を発表。『フライング・ソーサーマン』でキリンアートアワード2001奨励賞、STスポット・ラボアワード受賞。『BOKUDEX』で「旧バニョレ国際振付賞ヨコハマプラットフォーム」出場。ユニット・ボクデス&チーム眼鏡による『親指商事・営業課』で、「TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2006」出場。2011年アヴダル・篠崎『Field Works-office』横浜公演に出演。

神村　恵　Megumi Kamimura／振付家・ダンサー／神村恵カンパニー主宰

2000年、国際基督教大学教養学部卒業。同年より、オランダのロッテルダムダンスアカデミーにて1年間学ぶ。2004年よりソロ活動を始め、国内外にて作品を上演する。2006年より「神村恵カンパニー」の活動も開始。2007年こまばアゴラ劇場にて『山脈』を上演。近年は身体と言葉との関わりにも着目し始め、2010年11月、シアターグリーンにて「飛び地」を上演。カンパニー・ソロともに、空間に対する独特なアプローチと、生々しく浮き彫りにされる身体性が注目を集めている。

©Ujin Matsuo (Super Deluxe)

社本多加 Taka Shamoto／ダンサー

仙台出身。3歳より、仙台シティーバレエ団でクラシックバレエを始める。その後東京で小野正子らにバレエを学ぶ。1992年ドイツのハンブルグバレエ学校に留学。その後、コンテンポラリーダンスに転向し、1995年ベルギーのP.A.R.T.Sで学ぶ。1997年「ローザス」に入団、『Drumming』『Rain』など2007年までの全クリエーションに参加。2002年より3年間セゾン文化財団の支援を受け、遠藤康行と共に東京でワークショップを行う。また、日本女子体育大学の非常勤講師を務める。2006年一夜限りのソロ作品『気持ちは空を浮遊して』を発表（主催：世田谷ものづくり学校）。2007年ローザス退団後は、ニードカンパニーに入団。現在はフリーでJan Decorte、deepblue、ローザスなどとベルギーを拠点に活躍中。

川口隆夫 Takao Kawaguchi／ダンサー・振付家

1962 年生まれ。大学時代よりパントマイムを基礎とした＜ミーム＞を学ぶ一方、演劇やダンスなど数々のプロジェクトに参加。1990 年-1995 年「ATA DANCE」共同主宰。1996 年から「ダムタイプ」に参加。並行してソロ活動を開始。2003 年以降は音楽とアートの領域をまたぐアーティストとのコラボレーションを行い、「ダンスでも演劇でもない、まさにパフォーマンスとしか言いようのない」作品を発表。主な作品に『D.D.D.』(2004)、『グッド・ラック』(2008)、『true／本当のこと』(2007～／白井剛共演、藤本隆行演出)、『Tri_K』(2010～／ディック・ウォン、今泉浩一共演)など。現在、2008 年よりソロパフォーマンスシリーズ『a perfect life』を継続して発表している。

長内裕美 Yumi Osanai／振付家・ダンサー

大学にて舞踊学を専攻し、在学中より国内のダンスカンパニー（H・アール・カオス、プロジェクト大山）で活動。2008 年より振付を始める。横浜ダンスコレクション「ソロ×デュオ・コンペティション」にて 2009 年”審査員賞”受賞、2010 年”若手振付家のための在日フランス大使館賞”及び”MASDANZA-EU 賞”を受賞。「第 15 回インターナショナル・コンテンポラリーダンス・フェスティバル MASDANZA」ソロ部門 2 位。フランス/アンジェ国立振付センターにて半年間レジデンスし、作品を創る。ダンサーとして、金成用（キム・ソンヨン）率いる「MOO-E 舞踊団」にも参加。2011 年 7 月フランス人ダンサーのピエール・テデスキ共演で『NAMIDA』を上演。

© ROBISCO

山田うん Un Yamada／振付家・ダンサー／Co.山田うん主宰

1995年渡米。1996年より作品製作・発表を開始。2000年横浜ダンスコレクション「ソロ×デュオ・コンペティション」にて在日フランス大使館賞受賞後、渡仏。2002年「Co.山田うん」設立。ユーモラスで機知に富んだ数々の作品を国内24都市、海外12カ国20都市で上演。また、ソロダンサーとしての評価も高く、ダンス&トークの「ソロライヴツアー」を全国展開するほか、音楽、美術、学術、ファッションとのコラボレーション、演劇やオペラの振付、ワークショップ等多岐にわたる表現を繰り広げている。2007年篠崎由紀子とのコラボレーション作品『ひび』、2011年アヴダル・篠崎『Field Works-office』横浜公演に出演。

【共同制作団体】

deepblue http://www.deepblue.be

2001年にハイネ・ロズダル・アヴダル、篠崎由紀子、音響デザイナーのクリストフ・デ・ブックでブリュッセルに結成。以後「terminal」,「closer」,「inner horizon」,「in line」,「Some notes are」,「Box with holes」,「drop a line」,「you are here」と精力的に作品を制作。平行して、2009年から非演劇空間におけるプロジェクト “Field Works”を開始。バルセロナ郊外のオリーブ畑で「Field Works-nature」を皮切りに、「Field Works-hotel」をストックホルム、オスロ、トロンハイム、ワルシャワ、ベルゲン、ブリュッセルのホテルで上演。「Field Works-office」は、スウェーデンのヨーテボリダンス&演劇フェスティバルではレンタルオフィスRegus、ブリュッセルではKBC銀行の建物内、コルトレイクではBUDA Art Centerの事務所、ノルウェーのBergen Oktoberdans festivalでは設計事務所3RW、フランスのリールではLe Fresnoy (National studio for Contemporary art)の事務管理室、横浜では建築事務所で上演し、世界各国のフェスティバルで招聘を受け、高い評価を得ている。

NPO法人Offsite Dance Project http://www.offsite-dance.jp

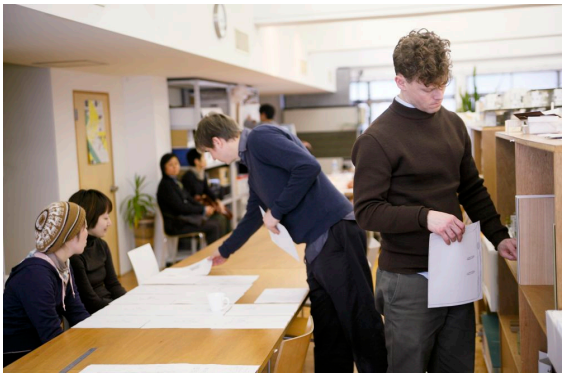
2008年3月オルタナティブなコンテンポラリーダンスの活動を推進する企画チームとして横浜で活動を開始。アーティストの新たな挑戦の場、観客との新たな関係づくり、様々な分野や地域のパートナーシップ拡大を目指し、国内外の様々な場所で劇場外に特化した活動を展開している。設立以後、ダンスの基盤整備事業として毎年ダンス・コミュニティ・フォーラム「We dance」を主催する他、東京大田区のまちづくりNPOとの共同制作による東急多摩川線を舞台とした「多摩川劇場」(08年)、世田谷美術館との共同制作による建築と身体をテーマとした「INSIDE/OUT」(09-10年)、アメリカ/ポートランドの総合芸術祭「TBAフェスティバル」におけるストリートを舞台とした「On Thirteenth」(10年)など、おもに都市空間におけるコンテンポラリーダンスや現代演劇のプロジェクトに取り組んでいる。

前回公演資料

We dance 2011参加作品　〈「TPAM Direction Plus」同時開催〉

ハイネ・ロズダル・アヴダル＆篠崎由紀子

「Field Works-office」



『Field Works - office』は、本当らしさと嘘っぽさのあわい、虚実皮膜の面上にパフォーマンスを成立させることを目論んでおり、「嘘を嘘として楽しむ」「フィクションにこそ宿る真実」という演劇が本来持っていたはずのポテンシャルを、逆説的にだが、浮かび上がらせてくれた。しかも悪戯のように楽しみながら。そして「虚／実」とはまた「日常／非日常」の謂いでもあるだろう。パフォーマンスは日常空間が一瞬だけ反転されるような瞬間を生み出すことに成功していた。

雑誌「ケトル」より抜粋／桜井圭介（作曲家、ダンス批評）

ベルギー／ブリュッセル拠点「deepblue」のハイネ・アヴダルと篠崎由紀子による、設計事務所や銀行など非演劇空間での創作／上演プロジェクト。音楽家ファブリス・モワネ、漫画家でパフォーマーのブリニヤール・バンリエンとのコラボレーションにより、音／イラスト／身体を用い、観客一人一人と関わる親密な作品。ヨーロッパ各地のフェスティバルで上演、好評を得る。日本初演の本作では、小浜正寛と山田うんがゲスト出演。横浜・馬車道にある建築事務所を舞台に、実際に業務が行われている中でパフォーマンスが行われ、観客は10分おきに2人ずつ入場し、30分滞在。フィクションとノンフィクションの狭間を行き来する体験で、ダンスの概念を覆す作品として高い評価を得た。

日時：2/17-2/18 13:00-19:00　＊YCC/B1F 集合

入場料：1,000 円（10 分ごと 2 人づつ入場）
会場：コンテンポラリーズオフィス

コンセプト・演出：ハイネ・アヴダル、篠崎由紀子
出演：ハイネ・アヴダル、ブリニヤール・バンリエン、ファブリス・モワネ、篠崎由紀子、小浜正寛、山田うん
ドローイング：ブリニヤール・バンリエン　/　音響デザイン：ファブリス・モワネ　/　写真＆映像：ハイネ・アヴダル
プロデューサー：ハイネ・アヴダル＆deepblue vzw　/　日本側コーディネーター：岡崎松恵
テクニカル・ディレクター：遠藤豊　/　運営スタッフ：山口裕子
共同プロデュース：TPAM、NPO法人Offsite Dance Project, Nordic Excellence Network (BIT-Teatergarasjen Bergen, Göteborgs Dans & Teater Festival, Perfect Performance-Stockholm, Kulturhus Århus Denmark, Black Box Teater Oslo, Teaterhuset Avantgarden Trondheim, Museum of Contemporary Art Kiasma Helsinki,) L'animal a L'esquena (Celra, Spain)
共同制作:Kaaitheater (Brussels), BUDA Kunstencentrum (Kortrijk)
助成：ベルギーフランダース政府（Vlaamse Gemeenschap, Vlaamse Gemeenschapscommissie）ノルウェー政府（Norsk Kulturråd, Fond For Lyd og Bilde, Fond for Utøvende Kunstnere, Norwegian Ministry of Foreign Affairs）/公益財団法人セゾン文化財団、横浜における創造的活動助成